新たな民有林支援に取り組みます

令和２年 11 月 16 日
広島北部森林管理署

人工林の多くが本格的な利用期を迎え、主伐の増加が見込まれる中、森林の多面的機能を発揮させつつ、資源の循環利用による林業の成長産業化を実現させるためには、主伐後の適切な再造林の実施が必要であり、造林の低コスト化及び苗木の安定供給が重要です。

我が国では、木材販売収入に対して、特に初期段階での育林経費が高い状況にあることから、主伐後の再造林の確保に向けて、造林作業に要するコスト低減を図る必要があります。また、低コスト化には従来の裸（普通）苗と比べて植栽時期が拡大でき、活着率が高いなどの利点があるコンテナ苗の普及を図ることが喫緊の課題となっています。

このような中、広島県樹苗農業協同組合と広島県立総合技術研究所・林業技術センターが、広島県内の苗畑で育苗され、その後森林に植栽されたコンテナ苗の成長調査を行うこととなり、広島北部森林管理署では、過去に国有林内でコンテ苗が植栽された造林地を試験地として提供することとし、11 月 13 日、国有林内の造林地 5 箇所において、共同で試験地の設定を行いました。

大土山国有林 57 地林小班

今回の調査では、同じ造林地内にコンテナ苗と裸苗が植栽されている造林地を試験地として選び、コンテナ苗と裸苗の成長量（樹高､根元径）の違いを土壌型別、地形別に調べるもので、今後年末にかけ本格的な調査が行われます。

犬伏山国有林 84 か林小班（試験地設定の様子）

今回の調査により、裸苗に比べてコンテナ苗の優位性が証明されれば、更にコンテナ苗の普及が促進されると広島県樹苗農業協同組合は話しています。

広島北部森林管理署では、地域の林業の成長産業化における様々な課題解決について、民国連携して取り組んでいきます。

今回コンテナ苗成長調査の試験地として提供した造林地

国有林	林小班	植栽年度	植栽樹種	植栽時期	面積	コンテナ苗の規格
大土山国有林	56に2	H25	ヒノキ	秋植え	1.00ha	300cc
〃	57ち	H26	〃	〃	1.00ha	300cc
犬伏山国有林	81よ	H27	〃	〃	0.86ha	300cc
〃	84ほ1	H30	〃	〃	1.11ha	150cc
〃	84か	H30	〃	〃	0.49ha	150cc